

お申し込みについて

申込締切：2026年11月 4日（水）17：00まで

※上記以降の申込は、満席を除き当日会場での受付となりますので名刺をご持参のうえ、ご来場ください。

1



パソコン(各種検索サイト)からダイレクトで

セミナーID(半角数字) で検索もしくは、<https://school.jma.or.jp/>

※貴社の情報セキュリティ方針等でwebからのお申込みが難しい方は
JMAマネジメントスクールまでお問い合わせください。
E-mail：seminar@jma.or.jp

2

スマートフォン
タブレットから

参加料 (消費税込)

参加者区分	セッション区分	合計1～3セッション	合計4セッション以上 (★一度の申込のセッション数に適用されます)
A: 建築設備技術者協会会員 B: 日本能率協会会員 C: 建築設備士登録者 (本人のみ)		22,000円／1セッション	19,800円／1セッション
D: 後援・協賛団体会員		23,100円／1セッション	20,900円／1セッション
E: 官公庁・大学		12,100円／1セッション	
F: 上記外		24,200円／1セッション	22,000円／1セッション

テキスト合本販売価格(消費税込)	S1～S8参加者 27,500円/冊	左記以外 35,200円/冊
------------------	-----------------------	-------------------

キャンセル規定

キャンセルのご連絡日	キャンセル料
開催15日前～開催8日前(開催当日を含まず)	参加料の10%
開催7日前～前々日(開催当日を含まず)	参加料の30%
開催日 前日	参加料の全額
開催日 当日	参加料の全額

無断でご欠席された場合も参加料の100%を申し受けます。

※一部のセミナーにおいて上記規定と異なる場合がございますので、ご確認のうえ
お手続きをお取りいただきますようお願い申し上げます。

個人情報のお取扱いについて

一般社団法人日本能率協会では、個人情報の保護に努めております。詳細は小会の
ホームページにて個人情報等保護方針 (<https://www.jma.or.jp/privacy/>) を
ご覧ください。なお、ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本催しに関する
確認連絡・実施および小会主催の関連催しのご案内を送付する際に使用させて
いただきます。

プログラム内容に関するお問い合わせ先(企画担当)

一般社団法人日本能率協会 産業振興センター
〒105-8522 東京都港区芝公園3-1-22 TEL：03(3434)1988(直通)
E-mail：tech-con@jma.or.jp

申込に関するお問い合わせ先(参加証・請求書・キャンセル・変更などに関する内容)

JMAマネジメントスクール
<https://school.jma.or.jp/contact/>

参加定員 130名/日

会場案内 ※会場地図は、参加証送付時にご案内いたします。

AP東京八重洲 〒104-0031 東京都中央区京橋1-10-7
KPP八重洲ビル 11階 L+Mルーム
電話：03 (6228) 8109



【交通のご案内】

- JR各線 「東京駅」八重洲中央口より徒歩6分
- 東京メトロ銀座線 「日本橋駅」徒歩約5分、「京橋駅」徒歩約4分
- 都営浅草線 「宝町駅」徒歩約4分

第59回

2026

最終案内

建築設備技術会議

～ 30の最新事例から探る、建築設備の課題解決と進化 ～

会 期

2026年11月10日(火)～13日(金) 4日間

会 場

AP東京八重洲 (東京都中央区京橋1-10-7 KPP八重洲ビル)

11月10日(火)

10:00
13:00
14:00
17:00

S1 カーボンニュートラル ～ 脱炭素建築・まちづくりの先進事例 ～

S2 カーボンニュートラル ～ ライフサイクルで考える脱炭素 ～

11月11日(水)

10:00
13:00
14:00
17:00

S3 ZEB ～『ZEB』ネット・ゼロ・エネルギーの達成 ～

S4 ZEB ～ 普及期に向けた展開 ～

11月12日(木)

10:00
13:00
14:00
17:00

S5 設備業界でのAI活用 ～ 設計から運用に至る事例 ～

S6 ストック建築物のCx・マネジメント最前線

11月13日(金)

10:00
13:00
14:00
17:00

S7 人を呼び込む大規模施設の最新事例

S8 データセンターの現在と未来 ～ 最新動向と未来技術 ～

お申し込み者には、「第48回 Japan Home Show & Building Show2026」の
ご案内状を進呈いたします。
<https://www.jma.or.jp/homeshow/tokyo/>

建築設備技術者協会WGの
報告をExtra Sessionで
お届けします (S6、S7)

後 援

国土交通省 公益社団法人空気調和・衛生工学会

協 賛

(申請中含む)

一般財団法人日本科学技術連盟	一般財団法人日本規格協会	一般社団法人日本建設業連合会	全国管工事業協同組合連合会
一般社団法人日本空調衛生工事業協会	一般社団法人日本冷凍空調工業会	一般社団法人日本建築学会	公益財団法人建築技術教育普及センター
一般財団法人日本建築センター	一般社団法人電気設備学会	一般社団法人日本保冷工業協会	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
一般社団法人日本設備設計事務所協会連合会	一般社団法人日本冷凍空調設備工業連合会	日本暖房機器工業会	一般社団法人リビングアメニティ協会
公益社団法人全国ビルメンテナンス協会	公益社団法人ロングライフビル推進協会	公益社団法人日本建築士会連合会	一般社団法人住宅生産団体連合会
一般財団法人日本建築設備・昇降機センター	一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター	一般社団法人日本建築士事務所協会連合会	一般社団法人建築設備総合協会
一般財団法人省エネルギーセンター	一般社団法人日本ボイラ協会	公益社団法人日本建築家協会	

主 催

一般社団法人建築設備技術者協会 一般社団法人日本能率協会

「建築設備技術会議」は、
建築CPD情報提供制度の認定プログラム(申請予定)です。

本会議は、1セッション(半日)で3単位取得できます。

一般社団法人建築設備技術者協会は、建築CPD 情報提供制度に参加しています。

最新の活用状況は、公益財団法人建築技術教育普及センターホームページ

<https://www.jaeic.or.jp/navi-cpd/cpdsys/> をご参照ください。

最新の情報・お申し込みは

JMA 100315



第59回 2026 建築設備技術会議 企画委員

(敬称略・法人名五十音順 / 2026年6月現在)

委員長 近本 智行 副委員長 樋山 恭助 委 員 米山 和宏 鎌田 貴浩 杉岡 直紀 石崎 陽児 溝畑 重利	立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科 教授 立命館サステイナビリティ学術センター長 明治大学 理工学部 建築学科 教授 アズビル(株) ビルシステムカンパニー 計装本部 計装システム1部 1グループ マネジャー (株)NTTファシリティーズ 東日本事業本部 都市・建築設計部 設備設計部門 部門長 大阪ガス(株) エナジーソリューション事業部 東京統括部長 (株)大林組 設計本部 設備設計部 部長 (株)鹿島建設(株) 建築設計本部 設備設計統括グループ グループリーダー	木虎 久隆 早川 勝 松岡 淳 本間 美鈴 原 英嗣 村上 孝幸 小嶋 浩司 片桐 貴志 柴田 康平	金沢工業大学 建築学部 建築学科 教授 関西電力(株) ソリューション本部 調査開発グループ (株)関電工 営業統括本部 コストエンジニアリングユニット エンジニアリング部 (設計担当) 副部長 (株)久米設計 環境設備設計本部 機械設備設計室 チーフエンジニア 国土院大学 理工学部 理工学科 建築学系 教授 清水建設(株) 設計本部 設備設計部1部 村上グループ グループ長 新日本空調(株) 首都圏事業本部 リニューアル事業部 設計部 部長 新菱冷熱工業(株) 首都圏事業部 設計一部 部長 ダイキン工業(株) 空調営業本部 テクニカルエンジニアリング部 技術担当課長	豊原 範之 藤崎 将彦 小池 正浩 林 立也 百田 真史 吉村 文利 関 悠平 梶 弘之 大塚 光雄 中村 光良	大成建設(株) 設計本部 設備計画部 部長 高砂熱学工業(株) 東京本店設計部設計 設計1課 課長 (株)竹中工務店 東京本店 設計部 シニアチーフエンジニア 設備担当 千葉大学 工学研究院創成工学専攻建築学コース 教授 東京電機大学 未来科学部 建築学科 教授 東京電力エナジーパートナー(株) カスタマーテクノロジーイノベーション部 エリア開発技術第一グループ グループマネージャー (株)日建設計 エンジニアリング部門 機械設備エンジニアリンググループ アソシエイト (株)日本設計 リノベーション設計部 副部長 日比谷総合設備(株) LC営業統括本部 副本部長 (株)三菱地所設計 機械設備設計部 ユニットリーダー
---	---	--	--	---	--

11月10日(火)

S1 カーボンニュートラル ～ 脱炭素建築・まちづくりの先進事例 ～

📄 林 立也 国立大学法人千葉大学 大学院工学研究院 教授

1 第一生命京橋キノテラス ～国内最大級の木材使用量(1,100)となる賃貸オフィスビル～

- 都市部事務所ビルにおける「Well-being × Sustainability」の実現
- 木造ハイブリッド構造のアップフロントカーボン削減取組み
- リサイクル資源を有効活用した鋼材(電炉材)を積極採用

🗨️ 村上 航 清水建設(株) 設計本部
プロポーザルソリューション推進室 環境ソリューション部

2 YKKパッシブタウン

- パッシブデザインによるエネルギー消費の削減
- 地域木材の積極的な利用と水素を活用した再生可能エネルギーのシーズンシフトによる脱炭素化
- 性能評価の公表

🗨️ 八木 繁和 YKK AP(株) 住宅・エクステリア統括本部 アドバイザー

3 TAKANAWA GATEWAY CITY需給連携による エネルギー供給と再生可能エネルギーの導入

- TAKANAWAGATEWAYCITYにおけるエネルギー供給
- 熱のデマンドレスポンス(負荷調整、送水温度可変、需要コントロール)
- 再エネ熱の導入によるカーボンニュートラル

🗨️ 星野 聡基 (株)日本設計 第1環境・設備設計群 グループ長

4 グラングリーン大阪 — 環境と共生し、都市価値を創出するまちづくり

- 資源循環が支える脱炭素型まちづくり
- ZEB Orientedをはじめとする環境負荷低減の推進
- みどりが創出する都市環境価値

🗨️ 伊藤 光太郎 (株)三菱地所設計 機械設備設計部

2050年カーボンニュートラルの実現において、建築物は非常に重要な役割を担います。本セッションでは、都市再開発から住宅・複合開発まで、ライフサイクルカーボン削減に関する先進的な実践事例を紹介していただきます。

低炭素建材の採用、自然エネルギー・未利用エネルギーの活用、地域熱供給、運用段階まで見据えたエネルギーマネジメントなど、多面的な取り組みを紹介していただきます。

これからの設備システムの方向性と、実務に資する示唆が得られる内容です。

S2 カーボンニュートラル ～ ライフサイクルで考える脱炭素 ～

📄 伊香賀 俊治 (一財)住宅・建築SDGs推進センター 理事長

1 建築物ライフサイクルカーボン評価制度の創設

- 国の住宅・建築物の省エネ・脱炭素施策
- 建築物省エネ法の改正と建築物ライフサイクルカーボン評価制度の創設

🗨️ 宮森 剛 国土交通省
住宅局参事官(建築企画担当)付 建築環境推進官

2 電力システムの脱炭素化に向けた DR readyの取り組みについて

- 2026年のホルムズ海峡危機下の日本の電力情勢と電力基盤再構築
- わが国電力ネットワークの脱炭素化の現状・課題展望
- 切り札としてのDR readyの取り組みと進行状況

🗨️ 西村 陽 大阪大学 招聘教授

3 建材、資材の再利用による サーキュラーエコノミーへのチャレンジ

- 技術研究所のOL3新築プロジェクトにおいて既存建物の建材、資材を再利用することに挑戦した
- サーキュラーエコノミーへの挑戦として既存建物の構造部材を丁寧に取り出し、新築に建材に再利用した。そのための設計における工夫や現場での苦心について報告する
- 万博パビリオンからの機材の再利用も行っている

🗨️ 小野島 一 (株)大林組 技術本部 執行役員 技術研究所長

2050年カーボンニュートラルの実現には、建築物を建設・運用・改修・解体までのライフサイクル全体で捉える視点が重要です。本セッションでは、国のライフサイクルカーボン施策、再生可能エネルギーの有効活用を支えるDR Ready、資源循環を促進するサーキュラーエコノミーについて紹介していただきます。脱炭素化に向けた制度・エネルギー・資源の各側面から、今後の建築・設備分野に求められる取り組みと実務への展開を考えます。

11月11日(水)

S3 ZEB ～『ZEB』ネット・ゼロ・エネルギーの達成～

📄 原 英嗣 国土館大学 理工学部 教授

1 YKK AP30ビル ～地域の自然と共生するZEBオフィス～

- 自然と共生するワークプレイス
- 井水を活用した空調計画
- ネット・ゼロエネルギーの実現

🗨️ 星野 秀明 (株)日本設計 第1環境・設備設計群 席主管

2 NGK Collaboration Square DIVERSIにおける 『ZEB』共創施設の取り組み

- 『ZEB』共創施設としてのコンセプトと取組概要
- 建築・設備一体で取り組んだ環境ルーバーや設備システムの紹介
- 運用1年目の実績報告

🗨️ 高井 智広 (株)日建設計 エンジニアリング部門
機械設備エンジニアリンググループ アソシエイト

3 目指せ空港初のZEB認証 みやこ地下島空港ターミナルの取り組みについて

- 当社が取り組む地下島空港事業について
- 自然豊かな宮古島の環境に配慮したターミナルビル建設
- 完全ZEBを目指した取り組み

🗨️ 伊藤 宏紀 三菱地所(株) 空港事業部 統括

年間の一次エネルギー消費量の収支を正味ゼロとすることを目指す『ZEB』は、4段階あるZEBの定義の中で最も高い省エネルギー性能が求められる水準です。本セッションでは、『ZEB』を達成した建築物について、その実現に向けた設計手法や技術的工夫に加え、事業者の立場から『ZEB』を目指す意義や導入の考え方をご紹介します。設計者と事業者、それぞれの視点から『ZEB』の実現に必要な知見を学び、今後の建築・設備計画に役立つ実践的な示唆に富むセッションとなることを期待しています。

S4 ZEB ～ 普及期に向けた展開 ～

📄 樋山 恭助 明治大学 理工学部 建築学科

1 ツカサ本社移転計画 ～これからの気候変動適応に向けた取組～

- 将来気象変動への適応に向けた建物内エネルギー循環利用の促進
- 熱源水ネットワークにおける水温最適化への取組
- 再生可能エネルギー利用(地中熱)の促進事例

🗨️ 吉田 淳 (株)竹中工務店 九州支店設計部 設備4グループ長

2 日建設計北海道オフィス ～積雪寒冷地における脱炭素化を目指した共創型オフィス～

- 地域資源の活用と環境性能の向上を両立した寒冷地モデル
- 自然エネルギーを活用した熱負荷低減の取り組み
- 省エネのみでNearly ZEBを達成した設備計画

🗨️ 辻 圭輔 (株)日建設計 エンジニアリング部門
機械設備エンジニアリンググループ アソシエイト

3 リゾナーレ下関 ～リゾートホテルにおける省CO₂と ウェルネスの両立に向けた取り組み～

- 地域ポテンシャルをフル活用する環境デザイン
- プールウェルネスと省エネを両立させるハイブリッド空調・昇温システム
- ホールライフカーボン削減に向けた取り組み

🗨️ 谷口 力也 (株)日本設計 第一環境・設備設計群 主管

4 急性期病院におけるZEBの取り組み 社会医療法人 河北医療財団 河北総合病院

- 急性期病院におけるZEB実現のための設備計画
- 運用段階での一次エネルギー消費量の実績と検証
- 省エネ未評価技術の評価検証

🗨️ 水野 真広 清水建設(株) 設計本部設備設計部4部

ZEBの普及を加速するためには、特別な技術に依存しない汎用的な設計手法を確立するとともに、多様な用途においてZEBを実現するための技術展開が重要です。本セッションでは、ZEBを達成した建築物の設計者による講演を通して、今後の普及に向けた実践的な設計手法や技術を解説していただきます。また、ホテルや病院といったオフィス以外の用途におけるZEBの実現事例を取り上げ、用途ごとの課題や対応策についても共有していただきます。多様な建築への展開を見据え、今後のZEB普及に資する知見が得られるセッションとなることを期待しています。

11月12日(木)

S5 設備業界でのAI活用 ～ 設計から運用に至る事例 ～

📄 近本 智行 立命館大学 理工学部教授 サスティナビリティ学研究中心長

1 スマートビルディング AIで最適化するための基盤と実装、標準化の取り組み

- スマートビルとは?
- スマートビルの事例について
- スマートビルディング共創機構の取り組み

🗨️ 粕谷 貴司 (株)竹中工務店 情報エンジニアリング本部
情報エンジニアリング1グループ長

2 AIを活用した熱源最適制御システム

- 熱源最適制御システムとは
- 熱負荷予測におけるAIの活用
- 熱負荷予測を利用した熱源設備の全自動運転の実現

🗨️ 豊本 翔生 新日本空調(株) 事業推進本部
ファシリティーソリューションセンター 課長補佐

3 設備設計を支援するAIとナレッジ基盤 ～「AI設計部長」「AI先輩」を中心とした設計DXの取り組み～

- AI設計部長による設計支援
- AI先輩による設計基準・技術文書の活用
- 設備設計ナレッジ基盤への展開

🗨️ 山口 亮 大成建設(株) 設計本部 設備計画部 設備情報室 室長

4 対話型AIを活用した効率的な施設管理に関する共同実験

- 施設運営・維持管理におけるBIM活用
- BIMの情報検索を実現する対話型AIエージェント
- 共同実験概要

🗨️ 山口 大地 (株)NTTドコモ クロステック開発部 都市デザイン技術開発担当
🗨️ 江藤 久美子 (株)NTTファシリティーズ NTT本部 サービス推進部 FIMセンタ

AIは建築設備の仕事をごどこまで変えるのか。設計支援、熱源最適制御、スマートビル運用、BIM活用による施設管理まで、設備業界におけるAI活用の最前線を第一線の実務者が紹介します。生成AIによる設計ナレッジ活用、自動運転を実現する熱源制御、スマートビル標準化の動向など、明日からの業務に活かせる実践事例が満載です。設備技術者がAI時代にどのような価値を発揮すべきかを考える絶好の機会として、ぜひご参加ください。

S6 スtock建築物の Cx・マネジメント最前線

📄 百田 真史 東京電機大学 未来科学部 建築学科 教授

1 既存ビルのスマート化と運用マネジメント

- ストック建築物のマネジメントの重要性
- データ活用による既存ビルの省エネ・省CO₂
- 既存ビルのスマート化を支えるコミショニング

🗨️ 赤司 泰義 東京大学 大学院工学系研究科 建築学専攻 教授

2 スtock建築物における運用・マネジメントに関する取り組み ～コミショニング、チューニング、AI活用の事例～

- 虎ノ門ヒルズ森タワーにおける高効率熱源運用の事例
- コミショニングへの取り組み事例
- エネルギーマネジメントにおけるAI活用事例

🗨️ 浅利 直記 森ビル(株) 設計部 設備設計部 設備設計3グループ 課長

3 田町タワーにおける環境・設備計画とコミショニング事例

- パッシブ手法を導入した環境・設備計画
- 高温冷水活用と最適制御による高効率熱源システムの実証
- 継続的コミショニングによる汎用技術の再検証と運用最適化

🗨️ 岩間 寛彦 (株)三菱地所設計 チーフエンジニア

4 愛知県環境調査センター・愛知県衛生研究所に おけるコミショニング事例

- 2014年から2015年の基本設計時からZEBの実現を目指したプロジェクトにおいて、実施設計フェーズ、施工フェーズ、運用フェーズに至るコミショニング事例を紹介
- 今後のカーボンニュートラル実現に向けたコミショニングの重要性を発表
- このプロジェクトにおいて開発された2温水投入型吸収式冷暖水機ヒートポンプの事例を紹介

🗨️ 横山 大毅 (株)久米設計 設計推進本部 GX室 室長

5 設計から運用へ広がるシミュレーション

- シミュレーションWGの活動(公開資料)の紹介
- 設計フェーズから運用フェーズへ広がるシミュレーションの事例など

🗨️ 永瀬 修 (株)日建設計 ダイレクター

脱炭素社会の実現、災害の激甚化、エネルギー価格の変動、老朽化や人材不足など、建築物を取り巻く環境は変化しています。これに対応し建物の価値を高めるには、設計意図を実現し、運用段階で検証・改善を続けるコミショニング(Cx)とデータに基づくマネジメントが不可欠です。本セッションは、建築物のマネジメントの将来像を示し、設計から運用段階に至るCx、省エネ改修、シミュレーション活用の最前線を紹介します。ストック建築物の再生と新築の価値向上に直結する実践的な知見を共有し、今後の建築物のマネジメントのあり方について理解を深める場となることを期待します。

11月13日(金)

S7 人を呼び込む 大規模施設の最新事例

📄 村上 公哉 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 教授

1 長崎スタジアムシティの日常と 非日常を織りなす設備計画

- 日常と非日常が交錯するにぎわいの空間づくり
- 街区併設型大規模集客施設の設備計画
- 他用途複合集客施設の安全を支える防災システム

🗨️ 池田 紘史 (株)竹中工務店 東京本店 設計部 設備第1部門
設備2グループ チーフエンジニア🗨️ 金子 学 戸田建設(株) 環境設備統轄部 環境設備設計部
機械設備第2設計室 主管

2 TOYOTA ARENA TOKYOにおける 次世代アリーナの設備計画

- Bリーグ新アリーナとして計画されたTOYOTA ARENA TOKYOの施設概要及び計画コンセプト
- 大空間アリーナにおける設備計画について採用した技術と設計上の工夫
- 脱炭素化や将来拡張性への対応を踏まえアリーナの持続的価値を創造するための設計の役割と今後の展望

🗨️ 太田 浩司 鹿島建設(株) 建築設計本部 本部長

3 建築・構造・設備が融合した環境配慮型アリーナ ～GLION ARENA KOBE～

- 歴史や街並みを取込んだ外構・建物形状と建築設備の融合
- 環境配慮(パッシブデザイン)・環境配慮(アクティブデザイン)

🗨️ 西村 晃 (株)大林組 設計本部 設備設計部 設備設計課 エキスパート

4 脱炭素と強靱性を両立するスマートコミュニティ

- JABMEE技術系WG活動として2022年に「スマートコミュニティWG」を立ち上げ
- エネルギーの面で脱炭素と強靱性を兼ね備えた最新スマートコミュニティ事例について調査
- それぞれの事例について特徴と目指す方向について紹介する

🗨️ 水潤 亨 清水建設(株) 設計本部 席設計長

2016年のB.LEAGUE発足や2021年の東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、国内ではプロスポーツやイベント興行への需要が一段と高まり、大型集客施設の整備が加速しています。これらの施設は多目的利用を前提に、AIやDXを活用したエンターテインメント設備の高度化が進み、スポーツ以外のコンサートや展示会など多様なイベントを通じて継続的な人の流れを生み出します。結果として、建物単体の集客に留まらず、周辺地域のにぎわい創出や都市の価値向上も期待されています。本セッションではこれらの新しい大型集客施設の最新事例を紹介します。

S8 データセンターの現在と未来 ～ 最新動向と未来技術 ～

📄 石崎 陽児 (株)大林組 設備設計部長

1 AI が急加速するデータセンター設備の進化

- 熱密度・電力密度
- サイバーセキュリティ対策
- モジュール化

🗨️ 江崎 浩 東京大学 情報理工学系研究科 教授

2 陸での課題を海で解決する。 洋上データセンターの社会実装に向けて

- データセンターを取り巻く環境変化と陸上立地の課題
- 洋上データセンターがもたらす優位性と新たな価値
- 実証から社会実装までのロードマップと現在の取組状況

🗨️ 児玉 和之 (株)NTTファシリティーズ
データセンターエンジニアリング事業本部
ソリューション部 エネルギー部門 担当課長

3 データセンター電気設備エンジニアリングの高度化と 人財育成 with "etap"

- 電力系統解析ソフトウェアetapについて
- グローバルデータセンターにおける電気設備エンジニアリングワークフローと留意点
- etapによるデータセンターのデジタル資産活用と人財育成

🗨️ 三井 章人 (株)エルテクス設計 代表

AIの急速な普及やデジタル社会の進展を背景に、データセンターは社会インフラとしてかつてない重要性を増しています。本セッションでは、第一線で活躍する有識者・実務者を迎え、データセンターを取り巻く最新設備動向を俯瞰するとともに、洋上データセンターという新たな挑戦、さらに高品質・高信頼な運用を支えるコミショニングや電力解析ソリューションの最新技術を紹介し、データセンターの現在地と未来像を、多角的な視点から展望する注目のセッションです。